校長室だより～燦燦～ №７３２

学年主任

2023.4.6

今日から新学期がスタートした。私にとっては、野田中学校の３年目が始まった。本校に限った話ではないが、どの学校も不登校の問題を抱えている。学校に来たくても来ることができない子どもたちがいる。

本校での１年目の１学期は、様子を見た。これがよくなかった。入学式の日に、１年生は全員登校した。ということは、学校に全く来ることができない子どもはいないということになる。中には、小学校のときに不登校だった子どももいる。だが、中学校の入学式には参加している。みんな学校に来たいのである。

ところが、１学期のうちに１年生が何人か登校できなくなった。その要因は様々である。１０人いれば、１０通りのケースがある。学校に何かしらの原因があるはずである。授業に魅力がない。友人関係がうまくいかない。そもそも中学校という空間が嫌だという場合もある。

２年目は考えた。１年生の学年主任にこう話した。「あなたに新１年生の学年主任をお願いします。あなたにお願いがあります。不登校を出さない野田中学校にしたいのです。あなたの学年から流れを変えたいのです」「わかりました。努力してみます」

この学年主任の先生は、きっと意気に感じてくれたにちがいない。毎日、欠席者を確認し、早め早めに動いてくれた。どの学級にも関わり、担任の先生とコンビで動いてくれた。学校全体の方でも毎日、教頭先生と欠席者を確認し、その理由も確かめた。心配な要素があれば、すぐに動くようにした。

１年生では、学年主任をはじめ先生方がよく動いてくださり、不登校生徒を最小限にとどめることができた。全く学校に来ることができない生徒はいなかった。１月だったか、１年生の学年主任が校長室にやってきて、誰々はどうで誰々はこうですと、いつものように報告してくれた。そして、笑顔で「今日の欠席者は１人です」と言ってくれたのである。その１人も夕方には来る可能性があった。私はこれを野田中学校の奇跡と呼んだ。この後も、こんなことが何度かあった。

この学年主任が毎週作成している学年通信は、いつも紙面が生き生きとしている。躍動している。学校生活が充実しているように見える。そして、何よりも学年主任が生き生きとしている。この先生からは、よく「先輩から教わりました」という言葉が出てくる。きっと、人の話をよく聞き、考え、自分のものにする方なのである。

この学年主任のおかげで、少し流れは変わった。もし、今年の１年生も同じようにできたら、完全に潮目が変わる。私は、教室に入ったときに座席に生徒がいないのが嫌である。さびしいと同時に申し訳なく思う。学校に来ることができない子どもの親御さんは、どんな思いで毎日、欠席の連絡を入れてくださっているのだろうと思うと、自分の無力さを感じずにはいられない。

教頭のときには、毎日、不登校生徒の家に行き、学校に連れてきていたことがある。野田中学校に来てからも、家庭訪問をし、生徒を連れてきたことがある。それが正しいかどうかはわからない。自分一人にできることには限りがある。

だが、学年主任をはじめ先生方が動いてくれれば、それは大きな力となる。組織の力、チームの力である。一人の生徒に対して複数の先生方が関わっている。今年度も、３人の学年主任には大きな期待をしている。学年のリーダーであり、不登校対策のキーパーソンである。